

九州大学(文部科学省委託) 「専修学校の学校評価・教育改善の在り方に関する調査研究」
吉本 圭一代表(科研費・基盤A) 「非大学型高等教育と学位・資格制度に関する研究」
安部恵美子代表(科研費・基盤B) 「短期大学教育と地域ステークホルダーに関する総合的研究」

国際セミナー

高等教育システムの機能的分化と質保証 非大学型アプローチ

基調講演

「世界における高等教育と 第三段階教育の機能的分化」

Ulrich Teichler

(カッセル大学国際高等教育研究センター・教授)

「日本の生涯にわたる 職業教育とその質保証」

合田 隆史

(文部科学省・生涯学習政策局長)

セッション

1. 高等教育システムの機能的分化と質保証
2. 人材養成目的とその点検としての卒業生調査
3. 第三段階教育としての高等教育のスタッフ
4. 第三段階教育のガバナンス
5. 高等教育の連携とIR

《特設セッション》(EQ卒業生調査参加校のみ)

卒業生調査から教育改善に向けてのワークショップ

パネルディスカッション

「非大学型からアプローチする機能的分化と質保証」

【コーディネーター】 吉本 圭一(九州大学・主幹教授)

【パネリスト】 亀岡 雄(文部科学省・生涯学習政策局主任社会教育官) 潮木 守一(名古屋大学・名誉教授)
平田 眞一(第一平田学園・理事長) 安部 恵美子(長崎短期大学・学長) 小方 直幸(東京大学・准教授)
ジョイス 津野田幸子(聖徳大学・教授、ハワイ大学コミュニティ・カレッジ名誉総長)

2013年 3月9日(土)

【会場】 ホテルレガロ福岡 レガロホールB
福岡市博多区千代1丁目20-31

【時間】 9:30~15:50
(懇親会18:30~20:00 参加費7,000円)
※日英同時通訳付

【主催】 九州大学人間環境学研究院

【後援】 日本私立短期大学協会
一般財団法人職業教育・キャリア教育財団
日本高等教育学会
日本インターンシップ学会
日本産業教育学会

短期大学コンソーシアム九州
全国専修学校各種学校総連合会
日本教育社会学会
日本キャリア教育学会

参加費
無料

2013年 3月10日(日)

【会場】 九州大学箱崎地区
文・教育・人環研究棟2F会議室
福岡市東区箱崎6丁目19-1

【時間】 10:00~16:30
※日英逐次通訳付

九州大学人間環境学研究院
教育社会学研究室内

九州大学「高等教育と学位・資格研究会」代表：吉本圭一
Tel/Fax:092-642-3125 E-mail:eduqual06@gmail.com
<https://eq.kyushu-u.ac.jp>

九州大学（文部科学省委託）「専修学校の学校評価・教育改善の在り方に関する調査研究」
 吉本 圭一代表（科研費・基盤A）「非大学型高等教育と学位・資格制度に関する研究」
 安部恵美子代表（科研費・基盤B）「短期大学教育と地域ステークホルダーに関する総合的研究」

国際セミナー

『高等教育システムの機能的分化と質保証 —非大学型アプローチ』のご案内



本セミナーは、九州大学が文部科学省からの受託事業として実施している「専修学校の学校評価・教育改善の在り方に関する調査研究」、吉本圭一代表の科研費・基盤A「非大学型高等教育と学位・資格制度に関する研究」（平成21～24年度）、安部恵美子（長崎短期大学長）代表の科研費・基盤B「短期大学教育と地域ステークホルダーに関する総合的研究」（平成21～24年度）の3つの研究プロジェクトで共同実施する国際セミナーです。国内外より本テーマに造詣の深いゲストをお招きして、5つのセッション、1つの特設セッションを設けて、短期大学・専門学校という非大学型高等教育からの高等教育の質の保証と向上に関わる研究成果を協議していきます。

2011年の中央教育審議会答申『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について』において明確に提起されているとおり、「職業実践的な教育に特化した枠組み」を確立していくことが今日のわが国の重要な教育政策課題となっています。この答申には、私たちの「高等教育と学位・資格研究会」の研究枠組みと通底する枠組み・方向性が示されていると考えています。すなわち、従来の高等教育が想定してきた「大学」型の「学術的な枠組み」とは異なる、固有の「枠組み」が高等教育段階での職業教育の充実・向上のために不可欠であるという認識のもとで、その在り方として、本研究会の枠組みである「教育の目的」、「教育の方法」、「教育の統制」という3つの次元と対応するモデルが提示されていることに注目したいと考えています。また、そこに「枠組み」という表現が使われていることもさらに吟味が必要です。私はそれを学校種などの「制度」だけを指すのではなく、教育プログラム単位での「機能」に着目したものとして把握したいと考えています。本セミナーにおいて「機能的分化」というテーマを設定したのは、必ずしも「制度的分化」として把握しきれないものを含めて論じたいと考えたからです。

ここで吟味する「職業教育」は、第一に「教育の目的」論として「一定のまたは特定の職業に関わる人材養成」という目的が明確に焦点づけられ設定されているかどうかということが重要です。そして、第二に、その目的に適切に対応した「教育の方法論」が必要であり、それは端的には「職業を通じた教育」であり、職業固有の知識体系やその伝達方法、そして教授する教育スタッフの固有の特徴から検討していくことができます。そして、第三に、これらの目的論・方法論をいかに現実の教育過程に展開していくのか、「教育の統制論」が注目されます。いま、高等教育のガバナンスとして学長のリーダーシップが問われ、管理運営体制と教育実施組織との関係、あるいは経営と外部ステークホルダーとの関係に目が向けられています。しかし、職業教育においては、教育の企画・実施・評価の過程における、地域・産業・職業の関係者の関わりこそが重要なところです。

本研究会では、さまざまな調査研究プロジェクトを通して、こうした高等教育における「目的」・「方法」・「統制」における機能的分化を探究してきました。

セミナーの第1セッションでは、「機能的分化」と「職業教育」という全体テーマに即して、世界的な動向

について高等教育の世界的権威であるドイツ・カッセル大学国際高等教育研究センター（INCHER）のUlrich Teichler教授から、日本の文教政策についてその責任者である文部科学省の合田隆史生涯学習政策局長から、それぞれ基調講演をいただきます。

次の第2セッションは「目的論」として、人材養成の目的がいかにかに達成されているのか、学習成果の点検・評価に焦点をあてて、高等教育における「卒業生調査研究」の世界的動向と、特にその先導的な調査プロジェクトであるドイツの大学共同卒業生調査（KOAB）についてドイツ・カッセル大学国際高等教育研究センター（INCHER）のKerstin Janson研究員から紹介いただきます。これに対し、複数の短期大学が戦略的パートナーシップとして組織



した短期大学コンソーシアムにおける卒業生調査プロジェクトを実施してきた安部恵美子長崎短期大学長からコメントをいただき議論を深めていきます。なお、本研究会では、現在21の短期大学、43の専門学校が共通の枠組みで卒業生調査プロジェクトを実施しており、この詳細な分析・検討については参加校関係者による「卒業生調査から教育改善に向けてのワークショップ」を特設セッションとして第1日目の最後に開催します。来年度からは4年制大学も対象とした共同IR調査プロジェクトとして展開しますので、この卒業生調査プロジェクトと結果の概要については本セッションで紹介していきます。

第3セッションでは「教育の方法論」として、「第三段階教育としての高等教育の教育スタッフ」をとりあげます。ボイヤーの学識論の適用をこえて、今日的な高等教育教員の特質に即した研究を行うために、本研究会では短期大学・専門学校の教員と教育組織に関する全国調査を実施しております。非大学型高等教育の教育スタッフ、専任者と兼務者それぞれに必要なとされる資質や経験、またその教員組織について、この調査の主査である稲永由紀筑波大学大学研究センター講師から研究成果を発表いただきます。続いて、高等職業教育教員の資質に関する研究的理解やその実践的な養成課程確立という点で先駆的なオーストラリアの動向について、同国の職業教育研究の拠点であるオーストラリア職業教育研究センター（NCVER）で長く研究を指揮してこられたHugh Guthrieヴィクトリア大学就業関連学習研究センター主任研究員から発表をいただきます。また、コミュニティ・カレッジ教員の職能開発に向けての全米的な動向を指導してこられた、ハワイ大学コミュニティ・カレッジ名誉総長のジョイス・津野田幸子聖徳大学教授に、教員に求められる資質とその開発のためのグレート・ティーチャーズ・セミナーについてお話しをいただきます。コメンテーターには、「第三段階教育の教員」にいち早く着目された潮木守一名古屋大学名誉教授にお願いしました。

第2日目の第4セッションと第5セッションでは、「教育の統制論」に焦点をあて、「第三段階教育のガバナンス」「高等教育の連携とIR」を議論していきます。今日、「機能別分化」や「アンブレラ方式」など、再編統廃合なども視野に入った議論が展開しているなかで、特に非大学型高等教育においては、ステークホルダーとの対話による教育の質をどう保証し、またそのためにいかなる機関・セクター間の連携が可能であるのかという観点から、ガバナンスと連携をめぐる研究協議をしていきたいと考えています。短期大学の今後の展開を検討するうえで、まず佐藤弘毅日本私立短期大学協会長から、短期大学の新たな挑戦についてお話しいただきます。そして、本研究会の枠組みを適用した研究成果として、秘書教育プログラムと外部ステークホルダーとの関わりについて江藤智佐子久留米大学講師から報告いただきます。さらに、安部恵美子長崎短期大学長、平田眞一第一平田学園理事長からは、それぞれ短期大学、専門学校における多様な連携・協働の事例を紹介しながら、これからの高等教育システムの一翼を担う諸機関の展開についてのモデルを提示していただきます。

プログラムの最後には、2日間のセミナーの総括としてパネルディスカッションを行い、一般の参加者とともに、これから個々の機関やセクターが、そして高等教育システムがその質をいかに高め、社会的な評価を得ていくのか、総合的な議論していく予定です。いろいろなお立場からの、皆様の議論へのご参加を期待しています。

2013年3月

九州大学「高等教育と学位・資格研究会」

代表 吉本 圭一

Kyushu University, “Research on School Evaluation and Educational Improvement in Specialized Training College”
 commissioned by the Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology
 “Non-University Higher Education and Qualifications Framework”
 coordinated by Keiichi Yoshimoto: Grants-in-Aid for Scientific Research (A)
 “Comprehensive Research on Junior College Education and Community Stakeholders”
 coordinated by Emiko Abe: Grants-in-Aid for Scientific Research (B)

EQ International Seminar, “The Functional Differentiation and Quality Assurance of Higher Education System —Approaches from Non-University Sectors”



This is an international seminar comprising the collaborative implementation of three research projects: “Research on School Evaluation and Educational Improvement in Specialized Training College”, which is being conducted at Kyushu University as a project commissioned by the Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology (MEXT); “Non-University Higher Education and Qualifications Framework” (2009 - 2013) coordinated by Prof. Keiichi Yoshimoto funded by the Grants-in-Aid for Scientific Research (A); and “Comprehensive Research on Junior College Education and Regional Stakeholders” (2009 - 2013) coordinated by Prof. Emiko Abe, President of Nagasaki Junior College, funded by the Grants-in-Aid for Scientific Research (B). We invite guests with deep knowledge of these topics from within Japan and from abroad to discuss the results of researches on ensuring and improving the quality of higher education, with perspectives from non-university higher education including junior colleges (Tanki daigaku) and professional

training colleges (Senmon Gakkou), at five sessions and one special session.

As is clearly raised in the 2011 Report of the Central Council for Education, “Career Education and Vocational Education in Formal Education,” it has become a vital educational issue in Japan today that we establish a “framework that specializes in vocationally focused education.” I believe that this report clearly presents the framework and orientation that are common with the research framework of our research group on “Higher Education and Qualifications.” That is, I would like to note that this report presents models corresponding to the framework of three dimensions of vocationally focused education by our research group—“goals of education,” “methodology of education,” and “control of education”—as the models of a unique “framework” different from the “university-type” “academic education framework,” which has been the assumption of traditional research university, based on the awareness that such framework is essential in order to enhance and improve vocational education at the level of higher education. In addition, while further examination of the expression “frameworks” being used is necessary, I do not aim merely to point to them as the “system” of types of the schools and the like, but rather I would like to take them as “functions” focused on the educational program units. I set the theme of “functional differentiation” for this seminar so that it includes discussion of points that could not necessarily be understood as “systemic and institutional differentiation.”

For the vocational education that we will examine here, it is important to consider whether the first “goals of education” for debate - the objective of “education and training for specialized or certain ranges of job” - is clearly set as a focal point. The second, an “methodology of education” that corresponds appropriately with that objective is needed. In other words, it is plainly “education through occupation,” which can be examined through the occupation-specific systematic knowledge and skills, the method of communicating this knowledge and skills, and the identical features of the teaching staff. Then, third, the focus is on the “control of education” of how the goals and methodology will be developed in the actual educational process. Today, the leadership of the university president is called for as “the governance” of higher education. Attention is also turning to the relationship between the administration and faculties, and between management and external stakeholders. In vocational education, however, it is precisely the relationship with stakeholders in the region, industry, and occupation that are vital in the process of planning, implementation, and evaluation of education.

Our research group has explored the functional differentiation of the “goals,” “methodology,” and “control” in higher education, through a variety of research projects.

In the first session of this seminar, in line with the overall theme of “functional differentiation” and “vocational education”, we will have keynote lectures on global





trends in higher education system from Professor Dr. Ulrich Teichler (the University of Kassel, Germany), who is an authority of higher education and on the educational policy of Japan from Mr. Takafumi Goda (Director of the Lifelong Learning Policy Bureau of the Ministry of Education, Culture, Sport, Science and Technology), who is in charge of educational policy in this domain.

In the following second session, as the “goals”, Ms. Kerstin Janson (researcher at the International Center for Higher Education Research (INCHER) at Kassel University, Germany) will introduce how goals of education and training are being achieved, focusing on examination and evaluation of “learning outcomes”, on global trends of “graduate survey” or “tracer study” in higher education and particularly on the university consortium on tracer study in Germany (KOAB), which is the leading research project. Besides, we will receive comments to deepen discussion with respect to these points from Prof. Emiko Abe (President of Nagasaki Junior College), who has conducted graduate survey projects in a consortium of junior colleges organized as strategic partnerships among nine junior colleges. In addition, our research group is currently conducting graduate survey projects in a collaborative framework with 21 junior colleges and 43 professional training colleges, and for detailed analysis and discussion, the stakeholders from the participating colleges and schools will hold “workshops toward educational improvement from graduate survey” in a special session at the end of the first day. The collaborative institutional research (IR) project will be extended to target four-year universities as well from the next academic year. We will introduce overview of these graduate survey project results in this session.

In the third session, the “teaching staff of higher education as the tertiary education” will be discussed as “methodology of teaching.” In order to investigate the theme in line with the nature of contemporary teaching staff in higher or tertiary education, and beyond the application of Boyer’s doctrine of scholarship, our research group is conducting a nationwide survey on junior college and professional training college teachers and teacher organizations. Prof. Yuki Inenaga (chair of this study and Lecturer at the Research Center for University Studies, University of Tsukuba) will discuss the results of the survey, about the qualities and experiences needed for full-time and part-time teaching staff of non-university higher education, as well as their organizations. Subsequently, we will have a lecture from Mr. Hugh Guthrie (Principal Research Fellow at the Work-based Education Research Centre, Victoria Institute for Education, Diversity and Lifelong Learning, Victoria University), who long directed researches at the National Centre for Vocational Education Research (NCVER), which is a base for the country’s vocational education research. It is on Australia’s leading trends, in terms of understanding on the qualifications of higher and tertiary education teachers and establishing practical training courses for such teachers. Further, Joyce Sachiko Tsunoda (Emeritus Chancellor of the University of Hawai’i Community Colleges and Professor, Seitoku University), who led the national movements of staff / faculty development of community college in U.S., will speak on the qualities required for teachers and the movements of “Great Teachers Seminar” for the development of those qualities. Prof. Morikazu Ushioji (Professor Emeritus of Nagoya University), will serve as commentator, immediately calling attention to the “teachers in tertiary education.”

In the fourth and fifth sessions of the second day, we will discuss “governance of tertiary education,” and “higher education cooperation and institutional research (IR),” focusing on “control of education.” Today, debates on restructuring and consolidation of higher education institutions are developing with “hierarchical differentiation through institutions’ clustering” and “collaboration and alliance (may be to merge)” in consideration. Amid such situation, we need to consider how to guarantee the quality of education through dialogue among stakeholders and hold research discussions over governance and coordination from the viewpoint of what kind of cooperation is possible among institutions and sectors particularly in non-university higher education. Firstly, to consider following developments of Junior colleges, Prof. Koki Sato, President of Japan Private College Association, will speak on “New Challenge of Junior College”. In order to reconsider the expansion and transformation of junior college education, as a result of applying the framework of the research group, Prof. Chisako Eto (Kurume University Lecturer) will report on the relationship of external stakeholders and program development, as a case, with the secretary education program that played a leading role in the development of the junior college system. In addition, Prof. Emiko Abe (President of Nagasaki Junior College) and Mr. Shinichi Hirata (Chief director of the Educational Foundation Daiichi Hirata) will present challenging models, as they introduce case studies of diverse coordination and cooperation in junior college and professional training college, respectively.

At the end of the program, a panel discussion will be held as the overview of the two-day seminar to have a comprehensive discussion together with general participants on how each organization and sector as well as the higher education system should improve their quality and be appreciated by the society. We hope a lot of participants to join the discussion from various viewpoints.

